

若竹や百まで踊る鳥の声
十かへりの花や人にもひとめくり
一めぐりしてからもとの花見かな
老て尚松のみどりのつやくし
薫風やこけむす楠としまたにの長

春秋庵幹雄宗匠撰

老松や杖はついても若みとり
五月雨や窓にとりつく草のつる
海遠く見ゆる坐敷や夕すゝみ
簾すだれまで新しくして茶の風味
謡初言ひ合せねと皆袴
水打た後は涼しきひる寝哉
今虹は消えた計りや夏の月
火を乞へは茶も出す梅の主哉
夕立のあとの涼しや松の月
詩は成らす孤燈更たり郭公
夕風になひく早苗の緑かな
蓬萊の根々賑し福寿草

咲くまでにしてもらひけり福寿草
年役に坐を譲られて月涼し
二度三度掃て月待坐しき哉
老木には似ぬ咲ふりや梅の花
色変へぬ松は千年の姿かな
花に杖減らして延す命哉
是からも歳十かへりそ松の花
原中や思ふ処に梅の花
一つ宛秋に入れり今朝の鐘
門先は広う持たし夏の月
時雨では日のさす松の匂ひかな

大修堂桃石宗匠撰

都には知らぬ深さよ越の雪
藻の花や汐に曳るゝ釣小舟
花に杖へらして延る命かな
飼鳥は春を告げり冬籠ふゆとろ
柴の戸の笑ひ聞ゆる霞哉
楽しさや開けは菊の招状

七三夏 眉八

七六翁 旭扇

有里 菊翁

大坂 古今

二本松 鳥山

東白川 茗吟

鬼骨 萩のや

なほ女 修竹

福田 初泉

越後 梅枝

東京 緑樹

一三 竹亭

粟野 含雪

大坂 照琴

仁井田 照洲

竹亭 文雅

福島 文龍

越後 仙年

大坂 花山

仁井田 多計三

杉田 新雅

東京 霞汀

越後 旭湖

同 君子

同 文龍

下川崎 霞松

秋 秋水

川俣 丈雪

縫上げし日を釣初る蚊帳哉

巢を出る鳥も千歳や松の花

枝も葉も見えぬ桜のさかり哉

摘草や日和を包む小風呂敷

老木にも幼ふりあり初桜

舟の灯は早し柳の三日月

立かへるとしやみどりに明る空

月花や雪にも芽張る糸柳

我こゝろ己れにある時風涼し

吹風は花なり花の麓村

風添て気色とゝのふ柳かな

明治乙巳秋

㊦ 新年摺

□□□□翠も深し年の松
□□□□みとりも深き山の松
□山の□あらためし霞かな
松茂る園や今より月に雪に
長閑さや千代を翠の松の声
植かへし松の翠や花の園
其中に松はみたりぬ梅林
松の声としたちかへるしらへかな
たのもしき松の翠や春の山
あらたまる年やみどりの山高み
翠なほふかし三河の五月山
夜もりんと松の翠や山かつら
梅園や風には寄らぬ香のはしり
丹精の園に溢あふれてきくの花
茂るらん松は千歳の育ちふり
あらためて薫る斗りや園の梅
生茂る松の翠や園の山

常陸 石窓

大坂 窗月

仁井田 花山

越後 團齋

大坂 柳芳

東京 鶴女

愛知 千山

判者 桃石

同 三木雄

催主 曉雨

同 鬼骨

東京 鳳聴

同 芳律

同 宣秀

同 永機

京都 楓城

同 静陰

大阪 素雲

大坂 露城

伊勢 杜楽

尾張 羽洲

同 二道

遠江 木潤

同 金宇

同 霞笑

同 荀文

同 随慶

同 芦洲

同 随慶

同 随慶

同 芦洲